



野原 恵子 議員
(日本共産党
幕別町議員団)

問

近年、家庭内暴力やセクシユアル・ハラスメントなど、女性に対する人権侵害に対し抗議の声があがるようになり社会問題となつている。これらの問題の根底には、歴史的につくられた性別役割分業意識(例…男性は仕事、女性は家庭)が深く関わり、男女を上下の関係に位置付け、女性の人権侵害と差別を生み出している。このような意識や行動は女性だけでなく、男性にとつても自らの行動や多様な生き方の選択を狭めている。

男女の格差を解消し、基本的人権が尊重され、性別に関わりなくその個性と能力を十分に発揮できる社会の実現が急がれる。以下、次の点について伺う。
(1)男女共同参画条例の制定を。
(2)ジェンダー平等の推進を。
(3)講演会の開催、広報などで町民に啓発を。
(4)学校でジェンダー平等教育と保護者にも学ぶ機会を。
(5)ハラスメント根絶に向けて庁舎内の取組と民間事業者への対策を。

問 女性が生き生きと暮らせる社会をめざして
答 十勝全体の共通課題として捉え、性差別に関する講演会の共同実施を提案している

①パワーハラスメント。②セクシユアル・ハラスメント。③相談体制の確立を。

町長

(1)第6期幕別町総合計画の中で、男女共同参画社会の促進に向けて、男女が共に働くための制度を啓発、家庭生活と仕事との調和を図る「ワーク・ライフ・バランス」の考え方の普及、子育て支援策の充実などに取り組むとしている。これまで公共施設内にPRポスターの掲示やパンフレットを設置しているほか、今年度、さらに理解と関心を持つていただけよう役場庁舎ロビーでパネル展を実施する。

(2)①国や北海道と連携するとともに、十勝全市町村が一体となって広域的に取り組むことでより理解が深まり、広く浸透するものと考へている。「十勝定住自立圏共生ビジョン」において、十勝全体の共通課題として捉え、性差別に関する講演会を共同で実施できるよう提案している。広報などによる

住民への周知・啓発活動は、これまでも実施している。
②町内の各小中学校では、既に日常的にジェンダー平等が浸透している。例えば小学校6校で女子児童が児童会長に、中学校3校で女子生徒が生徒会長を務めている。運動会・体育祭など多くの行事が男女分け隔てなく行われるなど、学校現場ではジェンダー平等が当たり前の空間となつている。それらの活動や様子を学校便りで保護者に知っていただくことで、保護者の学びきっかけとなつている。

【解説】

「ジェンダー」は、男女の生物学的な性別ではなく、「男性は、女性はこうあるべき、するべき」と無意識に考へているイメージです。男性は青、女性はピンク、男性は前に、女性は後にといった先入観が「ジェンダー不平等」を生んでいます。日本は世界の中でも後進国とされています。



(3)①、②、③昨年度、町では全職員を対象にパワーハラスメントやセクシユアルハラスメントの専門家を招いた研修会を開催した。今後にも安心して働ける職場環境づくりに努めたい。これまで窓口への相談はないが、ハラスメントを含む職員の健康管理などに関する相談は総務課が窓口となつてゐる。今後にも相談しやすい環境づくりに努めたい。

民間事業者におけるハラスメント対策は、平成29年、幕別町商工会が会員を対象としたハラスメント研修会を開催した。30年度は北海道商工会連合会が主催する研修会に幕別町商工会職員が参加し研修を受け、相談体制の充実を図つている。相談機関としては、幕別町商工会のほか、専門的な人材を備へ電話でも相談可能な「帯広総合労働相談コーナー」などの外部相談窓口が設けられている。幕別町商工会などと連携し、事業者内部の相談体制の確立や外部相談窓口の周知に引き続き努めたい。